

**令和2年度 第1回 明石市文化財保存活用協議会  
議事概要**

1. 日 時：令和2年11月17日（火）14:00～15:30
2. 場 所：市民文化博物館2階大会議室
3. 出席者

区分 (法第183条9第2項)	氏名	所属・役職	備考
明石市（第1号）	前野 有人	明石市政策局参与（シティプロデューサー）	
兵庫県（第2号）	甲斐 昭光	兵庫県教育委員会文化財課 課長	
学識経験者（第4号）	村上 裕道	京都橘大学 教授	会長
	森本 眞一	神戸学院大学 非常勤講師	副会長
	竹内 利恵	神戸学院大学 非常勤講師	
商工関係団体（第4号）	西川 稔	明石商工会議所事務局長	
観光関係団体（第4号）	樞原 一法	明石観光協会専務理事	
その他教育委員会が必要と認める者（第4号）	西海 英延	文化財所有者：宗教法人住吉神社 宮司	
	藤本 庸文	明石市連合まちづくり会協議会副会長	
オブザーバー	山下 史朗	兵庫県企画県民部地域創生局参事（歴史資源活用担当）	

事務局：明石市市民生活局文化・スポーツ室

（稲原昭嘉文化財担当課長、田川総司文化財係長）

明石観光協会（秋末稔業務理事兼事務局長）

明石政策局シティセールス推進室（藤田幸子シティーセールス課長）

明石市都市局都市整備室都市総務課（森本康平都市整備室長兼総務課長）

明石市教育委員会学校教育課（森洋輔教育課長代理）

事務局補佐：株式会社スペースビジョン研究所（宮前（洋）、岸本）

傍聴者：1名

**4. 資料**

- ・次第・出席者名簿
- ・明石市文化財保存活用地域計画（案）4章・5章部分
- ・明石市文化財保存活用地域計画の骨子（案）
- ・明石市文化財保存活用地域計画作成スケジュール

## 5. 議事概要

### (1) 開会

### (2) 議事

#### 【議事(1) 明石市文化財保存活用地域計画の素案について】

##### (第1章)

村上委員：文化財保護法に基づく地域計画を作成する上位法として文化芸術基本法があり、同法では文化芸術に関する施策の推進に当たっては、六分野（観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他）と連携するよう記載している。市でまとめられた一覧表にある程度網羅されている。6つの分野の代表的な方々がすでに集まっていたため、それぞれの立場からご意見をいただきたい。

文化財の防災については5章の(5)に記載され、小さな扱いになっているが、昨今の状況から別に章立てして扱わざるを得ないというのは国の指導として出てくる。あらかじめ対応しておくべきである。

前野委員：明石市立天文科学館を担当している。コロナ禍で集客イベントができない状態であったが、時の記念日100周年・明石市立天文科学館会館60周年のイベントをオンラインで開催し、75,000の視聴があった。

天文科学館でのイベントは明石市内や神戸市など近隣の人があるが、天文ファンは全国各地に点在しており、文化財に関しても近隣の人にはなじみがあるが、ファンの人がいろんなところにいるのではと気づいた。

オンラインのイベントにあたって市の職員と編集したが、意外と手間はかからない。

週1回、月1回、コンテンツをyoutubeに流すなどすれば意外と効果があるかもしれない。ぜひオンラインの活用も試みていただきたい。

明石市役所のほうでもスタジオを作るかもしれないという動きがありこちらで作ってもよいし、スタジオで制作してもよい。意外と費用も掛からない。

村上会長：高砂市では多彩な市民活動をしている。その一つである高砂八景では、ドローンと点描の実測データを組み合わせた魅力的な動画を製作して公開している。歴史のある明石の天文科学館がプラットフォームをつくと価値になる。プラットフォームを作るとネットの中でお金が集まる。バーチャルの話が地域計画書では抜けているが、アフターコロナを踏まえて考えなければならない。

竹内委員：オンラインの話は重要で、デジタルアーカイブの見せ方も考えなければならない。

楽しんで見られるデジタルコンテンツが不足している。その点が計画に出てきていないのはもったいない。デジタルで面白いものがあればアクセスされる。

天文関係では、星を見るなどの「宙ツーリズム」の人気のでていて天文科学館はその層を吸収できる。

村上会長：計画の記載では、天文科学館についてあまり書かれていない。

竹内委員：登録文化財としてはでてくるが、中身について記載はない。ただ活用する事業にはなってくる。

村上会長：歴史文化に近い取り組みをしている科学系が抜けている。明石市立天文科学館を中心として科学系も文化として今回の計画の範疇に含まれるのではないかと。

事務局：博物館の運営事業にもかかわってくることなので含まれる。

山下オブザーバー：兵庫津ミュージアムの整備に関わっており、近代からの産業の発展も扱っている。

昨日は三菱重工へ伺っており、兵庫津は一般公開しているが明石にもある工場ではそのような機会はないとのことだった。各社には長い歴史があって産業の遺産・生活の一部となっている。

今までの文化財の概念だと入らないが、産業も生活という面で科学等とともに計画の要素に入っているのではないか。

村上会長：要素には魚の棚商店街などの食文化も含まれる。要素に入れていくと、市が提唱している南北軸の話につながる。

文化財はものに対する価値観を付与しない。文化財担当者や関係者が食文化の歴史的背景を説明すると話の組み立てができて、活性化に向けて動き始める。

瀬戸内海・明石海峡は海流の関係で重要な場所である。文化財関係者が海からも明石を見ていこうという価値が理解される。

ストーリーを作成すれば、結果として観光につながる。観光分野からだと歴史文化遺産の価値や歴史文化のストーリーが作りにくいいため文化財分野がやっておけばよいのではないか。このように市内の各分野とキャッチボールすると、文化財分野から観光分野にボールが渡せる。

樫原委員：文化財としてはいいものでも、観光ではなかなか来てくれない。

明石城では、築城400年をきっかけにいろんなところにお聞きした内容をもとにホームページを兵庫県と一緒に作ったところ問い合わせが増えた。旧波門崎燈籠堂も昔から知っているが、半沢直樹のロケ地になってから有名になった。

高山右近で舟上城を押し出そうとしたこともあった。

民間の方がドローンで明石城を上から撮影された映像を観光協会が発信したところ、データを貸出するほど反響があった。

文化財にこういう良さがあるというのを教えていただいたら、メディア、マスコミや一般の方へ発信したり、ハイキングで歩いてもらったり、住職の方から文化財の説明を受けたりすると、口コミで広がったりすることがある。文化財のレベルによっていろいろなやり方がある。

整備した文化財データベースにストーリー、ネタがあるなら教えていただきたい。こちら(明石観光協会)のほうで仕分けし、発信する。

村上会長：文化財の基本的な資料をまとめたならそこで留めるのではなく、関係各所へパスをする旨の記述を加えるべきである。

西川委員：明石市の所在する東播磨は富山県に匹敵する産業地域であり長い歴史がある。

文化財がどうかかわからないが、工業製品でシェア日本一の物もあり、文化財の活用に関わり付けられる。

人を呼ぶなら食であるため、魚の棚商店街の表現をどうするか。産業の振興を図っていただきたい。

村上会長：1000tのプレス機(株式会社きしろ)など、すごいものが残っているが今まで調べていなかったのではないか。

機械の専門家は戦時中の物でもいまだに使えるかどうか見分けがつくが、世界に何台しかない

いというような価値については当事者はわかっておられない。

戦前から残る産業用機械も、いつの間にか捨てられてしまうものがある。

非常に大きい機械は現物を見に行きにくいですが、映像にできたら面白さが伝わる。そうすると、オンラインに結び付けることができる。文化財分野でストーリーとして出せるパスしやすいテーマである。

甲斐委員：2章で無形民俗文化財の掘り起こし調査が必要とされると書かれておりながら、A3表（骨子案）2-①に記述がないので追加すべきではないか。

4章1（各種取り組み）と4章2（課題）の構成を同じにしてはどうか。流れが整理されてわかりやすくなる。

文化財調査の目標が年1回であれば、データベース作成・更新が2年に1度はもったいない。貴重なデータがその都度得られるため、簡単に更新できるデータベースとすることが望ましい。データベースをもとにコンテンツを作り魅力が発信できる基礎になる。

「方針2-2\_25食文化の把握調査・魅力発信」の文化財部局の欄に○が入っていないが、文化庁では文化財として定義されていない食文化等の生活文化も取り入れようと検討されているので、今後は文化財部局も連携を見据えてはどうか。

森本副会長：小学校3・4年生には副読本「わたしたちのあかし」があるが、中学校の歴史的分野の副読本がないため検討している。支援してほしい。

今週土曜日には中学校の先生を集めて明石城の見学会を予定している。小学校では毎年新しく明石で勤務される教員対象に文化財の講習を行っている。

生徒だけでなく、教えるほうの教員へも文化財に対する意識をむける現地を見る機会を、積極的に進めていただきたい。

個人的にまちづくり協議会に所属している。考古博物館の協力を得て文化財の看板を作ったり、他のところでは冊子を作ったりされている。

こういったまち協の動きに対する援助をお願いしたい。当事者には部分的にしか見えないため全体的な支援をしていただければ有難い。

竹内委員：すでに調査研究された冊子がたくさん発行されている。見やすくまとめる、手に取りやすくするよう進めていただければ有難い。

オンラインへの対応は、文化財の保存活用における一つの柱になる。

福祉の観点からは、障がいのある方が文化財に触れやすくなるような対応など、多様性を確保していくうえで、長い目で見れば一つ触れておいたほうがいい。

村上会長：福祉の項目は必ず上げる必要がある。社会包摂が大切であると法律では位置付けら始めている。今からそういう話を整理していくことは重要である。今後は必ずいると思う。

認知症治療の一つである回想法において、祭りや風習の記憶が効果があるといわれている。民俗文化財は福祉と関係していることを理解しておくことが重要である。

西海委員：75 ページ「無住の神社建造物 ～中略～ の保存・管理が十分行き届かない事態」について、明石市域には神職が7人おり、神社庁に記載される神社は59宮ある。7人で59宮それぞれを管理している。そのうち26宮が布団太鼓を出している。それ以外はお稲荷さんをお祀りするなど民間信仰でおこった神社である。

我々神職がいるお宮さんよりも、特に太鼓を出すお宮さんは、地域の人が祭りを管理し、日ごろからも掃除や草刈りをされ協力されている。そのような神社のお祭りは、一致団結され、

お祭りらしい、一番古いお祭りの形態が残っている

そのため、「保存・管理が十分行き届かない」という記述は消去してほしい。十分とは言えないけれども、地域住民が努力しているという言葉に変えてほしい。

74 ページ 旧波門崎燈籠堂は「保存の措置が必要とされる」と記載されているが、すでに検討されているのではないか。

事務局：検討している。

西海委員：神戸新聞にも記述がある（令和元年 12 月 7 日「対岸の東側からの眺めを楽しんでもらうなど観光資源としての検討をしっかりとしたい」）

上の大手門の復元に関する記述では、検討したが進捗していないと記載されている。旧波門崎燈籠堂の場合も、検討後の状況を記載していただければいい。

灯台は本来海から眺めるものである。これから写真を写す場合、対岸の東側から眺めた視点が良い。

令和 2 年 3 月 8 日の神戸新聞イトウカンさんの写真は海側から燈籠堂を撮影している。行燈かけの写真も海から撮られている。

明石市で写真を募集する際に人が入っている場合、注意するようアナウンスがあったが、建物だけでなく人が添景に入っている写真は、長く使われるほどいい写真である。

海からの視点としては、神戸市北区が発行している南北逆転の地図が見せ方として驚いた。問い合わせたところ礼状とともに送付され、気持ち良いものだった。

藤本委員：布団太鼓プロジェクトの代表をしている。去年は築城 400 年のあかし伝統夢まつりが無事終了したが、今年はコロナ禍によって布団太鼓・獅子舞等のお祭りは表立った活動はできなかった。

水面下では、布団太鼓の新調や修理している。ただし、刺繍・工芸品や彫刻はほとんど中国製で、下取りという名で古い刺繍や彫刻が収集されているのは残念である。

大蔵谷に昭和 30 年代後半からお蔵入りになっている布団太鼓の調査を瀬戸内のネットワークとともにやっている。いずれは展示をしたいと考えている。

文化博物館に展示されている二見の布団太鼓は角が上がっており、博物館の所在する明石東部と少し文化（加古郡）が違う。

以前は、明石浦おたびの布団太鼓が飾られていた。例えば明石の市民ひろばなどに展示する場所を増やすなど、東西の布団太鼓が揃うときちんとした説明がつく。

各地にはお蔵入りの布団太鼓があり、工芸品が残されている。朽ちていく一方であるので、施設で公開するなど皆様にみていただきたい。

漁村の関係では、漁船の造船所の調査もしている。小さい造船所が残っていない。少し大きく建物が古い造船所は 2 か所確認している。調査をして頂けるとありがたい。

食生活では、イワシズシ（鯖寿司は作らない）や、いかなごのクルセ（大きくなったいかなご）をアナゴ代わりに使った巻きずしなどの食文化が表に出てこない。そういったことも書き添えていただければ。

山下オブザーバー：若年層の人口が増加している。歴史文化コーディネーターの育成に関する記述はあるが、地域に愛着・誇りを持ってくれるような子どもたちを育成していくという趣旨の文面を加えてほしい。中学校の教育でも歴史文化学習を取り入れていただきたい。時間がない中で、従来の文化財の枠ではなく広い視点であれば取り入れやすくなるのではないか。そうい

う方向性を示していただきたい。

出前授業の実施が年間2回は明石全体の学校一周するのに時間がかかる。歴史文化コーディネーターを6人としているなら5～6回は行ってほしい。

村上会長：基本方針3-2に、クラウドファンディングなどのプラットフォームを市民と一緒に考えていくという記載を加えてほしい。取り組みに当たる市民の自己財源を増やせる仕組みづくりを考える必要があり、クラウドファンディングであればオンライン上で完結する。

オンライン（ICT）との併存は、手話のように当たり前になる。リアルな世界と並行してICTの世界をイメージしたほうが良い。規模は問わない。

86ページ20番、安藤家は固有名詞を記載しなくてもよいのではないか。

また、文化芸術基本法の6つ分野の対応がみえるように構成することと、章立ての変更について対応すること。

### 【議事（2）その他文化財の保存・活用について】

村上会長：KPIの目標値等に関してご意見ある方は挙手願う。

山下オブザーバー：ICTのKPIとはどのようなものが想定されるか。

村上会長：急に出てきた話であるので、ICTに関するKPIまでは現段階で設定できない。

西海委員：74ページの「どっこんしょ」は浅い井戸を表す方言であり、一般的な井戸は深い井戸のことを指す。江井島の酒造関係者に話を聞くと、共同井戸は深い井戸であり「どっこんしょ」ではない。「どっこんしょ」（浅い井戸）として別に記載してほしい。

藤本委員：明石市域の布団太鼓における東西の特徴を解説したパネルは、できる範囲ですぐやっていただきたい。

村上会長：まとめたものを保持するのではなく、どうやって皆様にお知らせするかというのをやっていただきたい。

前野委員：福祉の分野では、「方針3-1-30 歴史文化周遊観光」について、障がいのある方でも楽しんでいただけるコース設定を観光協会中心に考えており、今年の3月にできた明石案内所で情報提供されている。

村上会長：福祉の項目で記載するように。

乳幼児×食文化の話はないか。福祉に関する記述が少ないため、調べておくように。

### （3）その他

事務局：次回協議会は2月とする。

### （4）閉会